

## 1.災害対策について

阪神淡路大震災から25年、大規模火災が発生し多くの建物が焼失した神戸市長田区は活気と情緒あるまちではなくなってしまった。このように、一度燃えてしまったまちは再生が大変困難である。

地震の際、揺れを感じると住宅の配電盤のブレーカーを落とす機能を持つ感震ブレーカーについて、平成29年10月3日の総務委員会で飯田末男委員が補助金の検討について質疑し、そのときの答弁は、感震ブレーカーの有効性については承知しているが、避難所等に避難する場合は自身でブレーカーを落としてもらえれば感震ブレーカーを設置する必要はないとのことであった。しかし、もし出張や帰省等で家にいない場合はブレーカーを落とすことはできない。また、転倒した家具などが邪魔してブレーカーのところまでたどり着けないことも考えられる。

発生が危惧されている南海トラフ大地震により影響を受けると予想される地域の都市では、火災防止に対して危機感を持っており、感震ブレーカーの設置に補助金を出している。県内では磐田市・御前崎市・藤枝市・静岡市、県外では横浜市・名古屋市・安城市・和歌山市などが例として挙げられる。さらに戸建て住宅だけでなく賃貸住宅にも補助金を出している市もある。

地震や台風などの風水害による家屋の倒壊や火災の発生が懸念される中で、障害者や外国人へは避難所の安全確認や避難所までの安全な道路・橋梁の情報発信を災害時であってもより迅速に行うことは重要である。

南海トラフ大地震の発生が懸念される中、遠州鉄道の高架化した鉄道線の耐震補強工事の状況を見ていると、全てには耐震補強工事がなされていないと感じている。

万一、遠州鉄道の高架橋が倒壊した場合、鉄道だけではなく、道路や周辺施設にも甚大な被害が予想される。そこで、以下3点について伺う。

- (1) 地震発生時の火災予防に向けた感震ブレーカーに関して、その普及促進について伺う。
- (2) 外国人や障害者への災害情報発信の現状と対策について伺う。
- (3) 市道曳馬中田島線の真上にある遠州鉄道鉄道線の八幡駅以南の高架橋について、早期の耐震化に向けた考え方を伺う。

---

## 2.健康都市の推進について

### (1) ビーチスポーツの推進について

遠州灘海浜公園江之島ビーチコートが昨年8月1日に開設され、土曜日・日曜日は90%を超える高い利用率となっている。また、多方面から称賛するコメントもあるように、大変すばらしい施設である。今後ますます本ビーチコートを活用する有名選手やそれを観戦する観客も増加してくると期待できる。

現在策定中の遠州灘海浜公園江之島地区整備基本計画においてビーチコートの機能内容を検討されていると思うが、本市が「ビーチ・マリンスポーツの聖地」を目指すのであれば、大会開催だけでなく選手や審判の育成も視野に入れた施設が必要であると考えます。

そこで、以下2点について伺う。

ア 今後のビーチスポーツ大会等の誘致について伺う。

イ 現在策定中の遠州灘海浜公園江之島地区整備基本計画において検討される核となるビーチコートの機能内容について伺う。

### (2) 高齢者健康づくりについて

高齢者が健康で自分のことは自分でできることは家族にとっても社会にとっても重要なことである。高齢者が元気でいてくれれば家族は安心して仕事ができ、また、子育てができる。本市は健康寿命日本一であるが、さらなる取り組みが必要である。特に、少子高齢化が進む中、高齢者の健康づくりは啓発だけではなく、日常的に活動できる仕組みづくりが重要であると考えます。

健康増進の体操やストレッチなどの教室の開催や健康長寿のための食に関する講座等の開催など、高齢者の健康づくりに関する取り組み内容と、今後の展開について伺う。

### 3.学校教育について

平成25年6月21日に参議院本会議でいじめ対策推進法案が可決・成立した。平成23年には滋賀県大津市で中学2年生の男子生徒がいじめを苦に自殺をするなど全国でいじめをめぐる問題が深刻化していたが、本市でも平成24年6月に同様の事件が起きた。今後、このようなことのない浜松市にしていかなければいけない。

学校には多様な児童・生徒が在籍しており、いじめ、問題行動、不登校、発達障害などの課題を抱えている現状に対応していかなければならない。教員は多忙の中、限られた時間の中での対応を求められている。

また、不登校になってしまった児童・生徒に対しては丁寧に時間をかけて対応することが重要であり、子供たちへのケアや復帰を支援する校外・校内適応指導教室は子供たちにとって非常に大切な場所であるとする。

そこで、以下の2点について伺う。

- (1) いじめなどの多くの課題についてどのように対応していくのか伺う。
- (2) ふえ続ける不登校児童生徒を支援するために、校外・校内適応指導教室などを開設しているが、今年度における活動状況、成果、今後の見通しについて伺う。

---

### 4.若者がチャレンジできるまちづくりについて

本市で生まれ本市で中学・高校時代まで育ち、他の地域の大学に行って、そのまま他都市や大都市に就職してしまう若い人たちが多く見られる。特に高校生の場合、卒業後そのまま就職する生徒は人生経験も少なく企業を選ぶ基準を考えると難しく、高校の先生のアドバイスや親の意見を聞いて決めるという生徒が多いと聞いている。生徒自身で考え、就職先を選んでいける仕組みづくりをしていくことが重要であるとする。まずは、本市から他都市の学校に行った後、本市に帰ってきたいと考えるような、若い人たちのU・I・Jターンのきっかけづくりを重要視していくべきだと考える。また、やらまいか総合戦略で示している「若者がチャレンジできるまち」を目指していくには、起業を目指している人たちへの支援制度を全国に発信していくべきである。さらに、多方面の分野でチャレンジの場をつくることで「若者がチャレンジできるまち」に変わっていけると考える。

そこで、以下3点について伺う。

- (1) 本市内の高校を卒業し、就職を選択する高校生に対する地元企業とのかけ橋となる取り組みについて伺う。
- (2) U・I・Jターンの促進に対する現在の取り組みと成果について伺う。
- (3) 本市で起業を考えている若い人たちへの支援について、成果と今後の取り組みについて伺う。

## 5.観光行政について

### (1)浜松まつりについて

浜松まつりはこの約40年で随分さま変わりした。昼間のたこ揚げはそれほどの変化は感じられないが、夜の御殿屋台の引き回しは、大きく変容している。当時は鍛冶町通りをメインストリートとして観客を魅了し、歩道には人があふれ活気に満ちていたものである。

しかし、現在は道路事情や近隣のマンション事情等により、練りの範囲・終了時間の制限等の規制があり、従来の浜松まつりの華やかさが喪失してきている感がある。市の予算を使う以上、市全体の事業として捉え、浜松まつりの集客効果を利用して市内の他地区の観光や産業に良い影響を導き出すことが必要と考える。

また、観光で多くの人を訪れる日本三大砂丘でもある中田島砂丘に隣接する浜松まつり会館は浜松まつりを市内外の方々に知っていただくためのツールとしても重要である。

そこで、以下2点について伺う。

ア 観光客の集客、周遊の促進についての考えを伺う。

イ 現在、来場者数が年々減っている浜松まつり会館について、浜松まつりの活性化のために年間を通じてどのように活用し、来場者をふやしていくのか伺う。

### (2)観光地と郷土産業の連携について

本市には中田島砂丘・遠州灘・浜名湖・天竜美林など豊かな自然があり、各地域にはさまざまな観光施設も点在するなど大変魅力的である。本市の魅力を上手に情報発信していけば来訪客はもっとふえると考え。そして、全国でも有数である豊富な農林水産物、食、伝統工芸品も数多くある。これらについて本市を来訪する観光客に触れていただくことは、大変重要であると考え。本市の認知度のみならず、郷土産業の活性化につながるものである。

そこで、以下2点について伺う。

ア 観光客に本市に来訪していただくため、伝統工芸品や特産品の魅力をどのように情報発信し、展開していくのか伺う。

イ 本市に来訪した観光客に農林水産物、食、伝統工芸品の魅力に触れていただくための本市らしいおもてなしをどのように行っていくのか伺う。